

令和5年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議の議事概要
日時 令和5年8月8日（火）13:30～15:00
場所 テレワークセンター徳島（ウェブ会議）

出席委員（5名）

会長	猪子 和幸	特定非営利活動法人 ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク理事長
副会長	米澤 和美	徳島県社会保険労務士会顧問
委員	河田 純江	株式会社テレコメディア徳島副センター長兼部長
委員	川原 雅好	株式会社エル・イズ・ビー
委員	佐々木 雅信	徳島県中小企業家同友会事務局長
委員	角 香里	特定非営利活動法人チルドリン徳島理事
委員	田澤 由利	株式会社テレワークマネジメント代表取締役

※竹内委員は欠席。

●概要

猪子会長

- ・ 議事次第に基づき、「令和5年度の取組内容について」の説明を、事務局からお願いします。

徳島県

（説明）

猪子会長

・ 続いて、議事（2）「コロナ後におけるテレワークの推進について」ということで、まずは企業支援担当者としての目線で、コロナ後の県内のテレワークを取り巻く動きや課題などについて御紹介いただければと思います。

角委員

・ 全国的な動きと同様に、徳島県においても、感染症対策で必要になって導入したり、それ以前から一部導入していたけれども、コロナの自社抑制のために対象を広げてやってみたという企業が増えました。

・ しかし、やはりピークが過ぎて、今となっては、もうやめてしまうか、継続するか。スケールは都市部より小さいけれども、二極化している傾向としては同じかなというところでは。

・ 継続している企業の中にも、モバイルワークは別として、在宅勤務については、必要と認められる社員だけにしようといった、縮小しているケース。あるいは、希望する人は誰でもできるけれども、実際やっている頻度は下がってきているというような縮小傾向というのは、多く見られます。

・ しかし、この傾向が悪いということではないと思っています。

・ 働き方改革とか、生産性向上といった視点で、テレワークの本質的なメリットを理解した上で導入した会社は、必要な時に使いやすいやり方を模索しながら推進している。そのような会社は、コロナが収まったからといって、やめるという選択はしていない。

・ 今、御覧いただいていますのが、県の委託事業「スマートワークプロジェクト」の中で、こちらのテレワークセンター徳島の企業支援部門で対応してきた相談件数です。個人の方のキャリア支援は除きます。

・ 昨年度は85件。今年度は、昨年度と比べると減っています。

・ ただ、相談にお見えになる方とか、あるいは内容が、コロナ禍とコロナ後の今では変化しているように感じています。

・ 5例ほど紹介させていただきます。

・ 1つは、県の食品メーカーの管理職の方から、今年御相談いただいた件。

・ 元々は2019年頃から支援して、部分的には導入されていたのですがけれども、コロナになって

本格的に導入されました。本社では、トップの方針として、コロナが終息したら原則出社に、ということでしたが、徳島の事務所の管理職の方は、今後も会社が認める働き方として継続していきたい、今後、子育て中の方や遠方からの通勤の方のためだけではなく、仕事と治療の両立といった視点からも、会社に合意を取って継続したい、5月までに制度化したいとお話でした。そこで、未整備の部分などについて、私どものできる支援を行いました。

- ・2例目は、広告制作業の管理者の方です。テレワーク自体あまり御存知なかったのですが、同業他社から採用された優秀な女性社員の方から、前の会社ではできていたからということで、在宅勤務を希望されたことがきっかけで、地元の商工会を通じて相談があり、「スマートワークカフェ」という出前相談会に御参加くださいました。

- ・特に費用面の相談ということで来られたので、助成金の情報を提供し、テレワーク全体の意義を御理解いただきました。こういう思いがあるから導入する、というのが大事だとお伝えした。

- ・その後、会社の中で、なかなかトップの説得が進まなかったのですが、今年になって、フォローのやり取りの中で、トップの方も交えてお話をさせていただけることになり、今後につながる関係ができております。

- ・3例目が、繊維卸の会社のトップの方です。最初はテレワークを導入したいということではなく、急に経理の担当者が退職したので入力代行だけでも頼めないかというようなお話でした。その方は「ICT ママ」という、在宅ワーカーが会社からお仕事を請け負う仕組みを御存知だったので、その関係で、お問い合わせをいただきました。

- ・その中で、「データ入力だけでなく、テレワーク環境があればこんなこともできますよ」という具体的な話をしていく中で、業務改善できる場所も多くあるように感じましたので、情報提供したり、サポーターズ企業を紹介しました。また、雇用の関係でも、デジタルスキルを学んだテレワーク経験者の雇用により、経理業務をスリム化し、広報や販売を強化するということもありますというお話をしました。

- ・それで今、テレワーク導入の検討が始まっています。

- ・4例目は、印刷業の方。在宅勤務ではなく、モバイルワークを頻繁にやっていたらしゃる会社です。私どものキャリアマッチングのチラシを見て、参加してみようということでお話をいただきました。

- ・一から十まで全てできる人が欲しいとおっしゃっていました。求人を出しているけれども、採用できていない。そこで、業務を切り分けて、人に委託して、質を高く、またスピードアップして進めていく、あるいは、あるスキルに特化した人を採用して、周りがサポート・OJTしていく、という方向で考えることを提案しました。

- ・マッチングをこれからやっていくのですが、在宅勤務は初めてなので、マネジメント面とか基本的なノウハウ支援などをしていきます。

- ・5例目が、知人が東京の仕事を持ったままリターンしてくるので、シェアオフィスを紹介して欲しいというお話。テレワークセンター徳島では、以前コワーキングスペースを開放していたので、現在も、利用したいというお問合せを多く頂戴します。

- ・御紹介した5例のように、今からテレワークを始めたいとか、直接的な相談はもう少なくなっていますが、「人材不足しています」「採用が難航しています」「今いる人が転職するかもしれない」という御相談が多い傾向です。

- ・働き方、仕事の進め方、DXなど、推進すべきテーマがあるけれども、そのための知識がある社員がいないとか、そういった課題を聞きとりまして、テレワークで全部解決できるわけではないですが、ICTを使った働き方を活用して解決できることもある、と。テレワークは便利なツール、手段なのだ。テレワーク活用のアイデアを御提案し、国の支援等の情報提供をするのが、今やっている支援の中心になっています。相談件数は減っているけれど、こういうことに今は重点が変わってきているということをお伝えしたかった。

- ・テレワークは今までやったことがなく、自社にはそぐわないものだと思っている会社さんにも、先に目的があって、それを達成するためにテレワークという方法を使うということをお伝えし、検討いただく機会が増やせていると感じています。

- ・その他のテレワークの推進活動について、3つ御報告をさせていただきます。

・まず、総務省の「テレワーク・ワンストップ・サポート事業」。全国の地域窓口やテレワークマネージャーに、この事業の事務局から毎週ニュースレターがメールで届くのですが、徳島県の取組を知ってもらいたいなと思って、総務省の御担当者と事務局の方に御連絡したところ、ぜひということで、7月から地域相談窓口として登録をされたところです。

・次に、「阿波おどりテレワーク」。テレワークを「必要な時にはする」とおっしゃる企業も多くなっているけれど、その「必要な時」をあえて作っていかないと、テレワークがなかなか実施されない。「こんな時こそテレワーク！」ということでムーブメントを仕掛けたいなと思って考えました。秋にはテレワーク月間もありますけど、季節にひっかけて旗を振っていきなと思ってしています。SNSで県外の方々が「阿波おどり」を検索した時に、「テレワーク」も出てきたらどうかと。混雑する阿波おどりの時期の通勤を避け、家族がせっかく家に居るのなら、ちょっと顔も見ながらテレワークしませんか、というような提案をして、こういうのも「必要な時」か、と思ってもらえたらなということ今始めています。従来は県内の企業に向けてリリースすることが多かったんですけど、今回、PRTIMES等を使いまして、広く全国のメディアに取り上げてもらえたらなと思って発信しています。また、8月14日と15日だけですけれど、テレワークセンター徳島も使えますよ、としていて、帰省して来られた方や、祭りに行く前に少し仕事をしたい方に活用いただけたらと。これからもこういう企画を立てて、旗を振っていきなと思ってるところです。

・3点目、テレワークと柔軟な働き方に関するアンケート調査をやります。昨年は6月、7月頃にやったので、1年前のこの会議では速報・概要・傾向をお伝えできたのですが、今年度は設問等調整中で実施が遅れていて、本日お伝えすることができません。結果は3月にお伝えできたらと思います。

・続きまして、先ほど県から説明があった「テレワーク講座」について補足をさせていただきます。皆さんから御意見をいただきたいと思えます。

・リーフレットに掲載している20講座以外にも、色んなeラーニングのコンテンツがあったり、昨年度までの収録分とかも御覧いただけるような形にしています。新規の20講座は10月3日から開講しますが、オンデマンドで、自分のタイミングでお好きな講座を見ていただけるようにしています。

・コースは例年どおり、自営型のテレワークをやっていこうとする方の「テレワーカーコース」、「コーディネーターコース」、そして周囲にテレワークを推進する担当者等を対象とした基礎知識的な「スマートワーク推進コース」の、3つ用意をしています。単発での受講もできますし、コースを組み合わせていただくこともできます。

・また、企業の方に採用面などの課題をお聞きして、講座を社員の方のリスキリングに活用しませんかと、提案していくようなこともやっていこうと思っています。

・コースの受講者には、受講前にカウンセリングを行い、修了生には在宅ワークのマッチングの支援も行っています。ニーズを踏まえて、期間を区切らず、2月末まで随時個別対応しようということで進めております。

・これに関して、前回3月の会議で、委員の皆様からも色々と御意見をいただきました。もともと御本人が持っていたキャリアで就職したのであって、「この講座を受けて、知識やスキルが増えたから就職できた」と言えるかということ、どうなのかなと。それをもう少し何とかしたいなというところで、例えばみんなと一緒に勉強し合えるようなバーチャル空間などがあればよいのでは、というようなアドバイスを頂いて、私どもの方でも検討をしてみました。

・「スマートワークカルテ」と言いまして、企業側の採用担当の方と、個人の方のカルテを電子的に作ります。個人のカルテには、その方が今まで受講した講座、スキルアップの内容や、要望する働き方、バックグラウンドなどを蓄積していきます。それを使って、コーディネーター、カウンセラーが、マッチングの支援をします。コース受講者が目指すキャリアに向かえるよう、丁寧に、受講講座の提案・アドバイスも含めてやっていきなと思ってしています。

・ほかにも御意見があれば、また改めて頂ければぜひ考えていきなと思ってしています。

・もう一つ、テレワーク講座の特別講座というのを企画中でして、それについてぜひとも御意見を伺いたいと思っています。

・キャリアアップ、管理職を目指す方向へのセミナーを立ち上げようということで、今考えて

います。テレワーク講座の一部と、別の特別講座を組み合わせた形を提案して、特別講座だけの受講もできるように。今、企画中なので、中身について御意見いただきたいなと思っているので、よかったら後でお願いします。仮のテーマが、「想像を超えるダイバーシティ社会の到来を見据えて」。柔軟な働き方で、多様な人材と共にチームをつくり、成果を上げていく立場になることを目指して、このセミナーで、先輩から自分に投影できるような話を聞いて、頑張ろうと思えるような中身にできたらなと考えています。

・特別講座の講師としては、四国大学の加渡いづみ先生に決まっておりますが、内容は確定していません。今後は、従来よりも広い範囲の方と一緒に、多様な働き方でやっていく時代なので、「今後こんな世の中になっていく」というようなところも、お話いただけたらなと思っています。私の周りでも、管理職のオファーを受けても、ライフステージや能力的なところから「私にできるのかな」と、二の足を踏む方がいます。そういった人に勇気を持ってもらいたいという思いで、現役の管理職の方とのセッションの中でも出せれば良いなど。そして最後に、ネットワークタイムで、同じような立場にいる人たちと繋がってもらえる時間を作ったらどうかと考えています。

・企業でお勤めの委員の皆様から聞きたいなと思っているのが、「部下の方が、管理職のオファーがあってどうしようかと考えているような時に、どんな声掛けをされますか」、あるいは「皆さん自身がオファーを受けたとき、どんな支援とか、どんな話が聞ければ、頑張ってみようと思えるでしょうか」ということ。後ほどよろしくをお願いします。

猪子会長

・ありがとうございます。テレワーク講座については、企画力とか、スタッフの方のチームワークみたいなものがなければできないような内容。専門的なものには、それぞれの専門家の方にお声がけをして講師になってもらっておりますけれども、かなりハイレベルな内容についても、事業スタッフ、テレワークセンターのメンバーの方が担当している。日々どんどん勉強して力を蓄えて、知恵を出し合っているというのがわかりました。

・委員の皆様方には、今お話をいただいた県関係のお話、それから、委員のお話、これらに対してお聞きしたいこと、それから、私はこう思うというようなことがありましたら、どんどん手を挙げて、御質問なり御意見なりを積極的に頂きたいと思っておりますので、よろしくお聞きいたします。

佐々木委員

・質問です。県のニーズ調査ですが、対象になる企業の数とか、できれば発表時期を。例えばもう年末ぐらいまでにやってしまうとか、そういったスピード感をもって実施されると助かるかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

角委員

・私からお答えします。対象企業数は、今の案では800弱です。県内の企業・団体に出そうと思っています。去年は、もう少し少なく、700ぐらいだったと思います。

・だいたい毎年、アンケートをお送りして2週間ぐらいで回答いただけるので、いつも8月末ぐらいで一回、速報的なリリースを出しています。きちんとしたサマリーみたいにはできないのですが、回答いただいた会社ではなく、お願いした会社さんに、傾向はこうでしたという結果をフィードバックするようにしています。

・今回は、テレワークと柔軟な働き方、そして、それを活用した人材確保のことなどもお聞きするような内容になっています。委員の皆さんにも見ていただけるようにお出ししたいと思っております。

佐々木委員

・ありがとうございます。速報と、それとまた正式な発表ということなんですけど、正式な発表に関しては、例えば県のホームページの中で見えることはできるのでしょうか。

角委員

- ・いつもテレワークセンター徳島のホームページに掲載をしています。
- ・速報については、記者クラブにも出しています。取り上げてくださる場合は、バックデーターも一緒にお伝えをして、記事にしてもらったこともあります。

佐々木委員

- ・丁寧な御説明ありがとうございました。

猪子会長

- ・ほかに、どうぞお願いします。

田澤委員

- ・今の質問に乗かって、お聞きしたいと思います。アンケートは大事だと思うんですけども、どういう目的かで、多分、調査項目が決められる。単に「現状を教えてください」というのでは、先ほど人材確保的な話を入れるということだったのですけれども、その目的でどういう結果を出したいか、それをどう活用したいかっていうのが明確な上で調査票が作られると思うので、この段階で調査票まではもちろん求めないんですけども、今回の調査でどういうことを浮き彫りにするのかというあたりをお聞きしたいです。
- ・また、770社ということなんですけれども、徳島県全体での企業数と言うと、多分、調べただけでも2万7千社ぐらいあるんじゃないかと思しますので、その770社に絞った基準というのを教えていただけますでしょうか。

角委員

- ・目的は、まず、テレワーク活用の現状調査。それから、今後の支援のためのニーズ調査ということをやっています。
- ・経営課題は何かという質問で、だいたい毎年、「人材の獲得・定着」とか「育成・スキルアップ」が出てきますので、今回、それを踏まえて、「テレワークを活用して人材獲得ができる」というところを、こちらから提案したいと考えています。
- ・人材獲得についての質問では、「今後、テレワークなどの働き方を希望する人材を新たに雇用する可能性があるか」など。また、テレワークをやっている会社さんにお聞きする内容としては、「実際、誰がどれぐらいの頻度でやっていますか」と、「どんな仕事をテレワークでやれていますか」というもの。それをまとめるときに、業種や地域、規模ごとに、「こういう仕事が今、テレワークでできている」というデータを示し、これからテレワークを導入する方にお伝えしたいのです。また、雇用や業務委託のマッチング支援にも活用したいと思っています。
- ・デジタルネイティブの方々をこれからお迎えする中小企業の方は、不安に思っているところもあるかと思しますので、そこに何かヒントを返せる結果を導きたいなと思って、項目を検討しています。
- ・対象企業については、県の表彰企業リスト等を元にして、自分たちで作成したデータベースを使っています。毎年増えているのは、訪問したりセミナーに参加していただいたりとか、つながりを広げているので、増えていっています。
- ・「2万もあるのになぜ700か」というところに関しては、手が届いてないというか、データを買えたらいいのですが、私たちにはそれができなくて、地道に対象になるかもしれない会社を探して、データベースに足しています。

田澤委員

- ・ありがとうございます。私の知ってる話が、このアンケートに活用できたらと思って、プラスでお話させていただきます。
- ・別の県で、中小企業にテレワークを導入するという事業を、私どもよく受けるんですけども、そうした時にテレワークと言ったら、もうほとんど回答が減る。何となく「終わった感」が多い。これからテレワーク導入できる企業を増やしていきたいと思うのであれば、「掘り起こすためのアンケート」があった方がいいのではないかと思います。

- ・今の話だと、これまで溜めてきた企業ということは、これまで連続して聞いてきた企業ということになりますので、新しい企業というわけでもないし、テレワークという言葉が出ると、その企業の中でも答える人が「もういいよ」って思ってしまう危険性があると思うので、せっかくの事業ですから、一度リストの見直しとか、「ニーズを掘り起こすアンケート」を。
- ・テレワークと言われたら答えないので、もっと別の「企業課題は何ですか」というアンケートにして、その中の企業課題からテレワークで解決できるよということを次のステップでいけるように、彫り出していくっていうのが、私が経験してきた他県事業の中では、効果があるかなと思います。
- ・また、リストを作るのが大変ということですが、最近、値段はそんなに高くなく入手できる方法がありますので、もしまだ間に合うのであれば、そういった新しいリストも加えたりとか、調査票のスタンス含め御検討されるといいと思います。
- ・私も結構苦労したんです。なかなか回答が得られないとか、いつも同じところになってしまうということを経験したので、御参照いただければと思いました。

角委員

- ・ありがとうございます。企業課題も、もちろん聞くようにして、そこから広げるようにして、「テレワーク、またか…」感を出さないようにと思うのですが、どうしてもタイトルが。

田澤委員

- ・ですからタイトルから変えたほうがいいと思いますし、「テレワークを希望する人材を採用したいですか」なんて言ったら、もうそのまま誘導的な感じになってしまいます。
- ・「人材確保」と「人材の新規採用」というのが、中小企業さんも含めて地域の企業さんの大きな課題であり、ニーズであると思います。人材不足は絶対ある。それに対して、「デジタル化がどれぐらい進んでるか」とか、色んなことを聞いた上で支援を。テレワークに特化しちゃうと、ちょっときついのもかもしれないと思いました。
- ・あと、「社員の中で子育て中の方が多いか」とか、「男性の育児休業がどうか」とかっていうのも含めて聞くと、次のアプローチがしやすくなるんじゃないかなと思いました。

猪子会長

- ・ありがとうございます。ほかに、御意見御質問等ありましたら、どうぞ。

米澤委員

- ・今の御発言、私もずっとこのところ、テレワークっていうのが、もう過去のものになりつつあるので、やっていることは先進的なことで、内容はすごいはずなので、「スマートワーク」とか言った方がまだ受け入れられやすいのかなと思います。
- ・もう一つ、女性活躍っていうのも、飽き飽きしていたところがあって。もう活躍しなくていいよ、という活躍している女性の声もある。だからそこも全体的に考えていったほうが良いのかなと思う。皆さん、充分活躍されてますよっていうのをわかっていたら。テレワーク講座、カウンセリングから始まって、ちゃんと次につなげていくところまで考えられている。すごい取組だと思うので、多くの方に活用していただけるようになればいいなと。最初の頃から見てこんなに素晴らしくなったので、次のステップに行っていたらなと本当に思います。

角委員

- ・ありがとうございます。

猪子会長

- ・時間も押してまいりましたが、私から一件御報告がありますので、聞いていただけますか。
- ・前々回のこの会議で「一般社団法人 JCI アクセシビリティ協会」の創設を御報告しました。
- ・御承知と思いますが「障害者法定雇用率」という制度があり、企業や公的機関では、一定の

人数以上障がい者を雇うことが義務づけられ、雇っていない場合は、納付金の納付が義務付けられています。障がい者は、一般企業も公的な機関も雇用したがないということが当然の認識となっているから、このような法律ができる。これを何とかしたい。

- ・障がい者自らが主体となって意思決定をし、得手を活かした事業を営み、収益を応分にシェアして、社会的・経済的に自立できる仕組み、「障害者・高齢者が主体となっていく、複合的な経営体」が構築できて、初めて、障がい者は、健常者と対等な立場に立って協議もできるし、協働もできる。それを実態として作りたいていう思いの「産物」です。

- ・最近、朝日新聞の記者が、設立総会を密着取材してくださり、デジタル朝日に載せてくれました。記事（「障害者の自立支援へ 新法人 鳴門、HP 検査業務拡大目指す」）を見ていただけますか。色々御意見をいただければありがたいと思います。

- ・本日はお忙しいところ、皆さん方の御協力、本当にありがとうございました。

佐藤係長

- ・猪子会長、ありがとうございました。本日いただきました御意見や御提案につきましては、事務局において整理し、今後の県の施策に反映させていきたいと思っております。

- ・それでは、これをもちまして、令和5年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。